

第371回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社) 日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会

コロナ禍において出社等が制限される中、HPLCやLC/MSに代表される機器分析環境の再構築を余儀なくされた企業や分析機関は多いと思いますが、一方で、あまり変わらない、対策はこれからという企業も少なからずあるようです。今後も続くかもしれないウイズコロナ時代に、どんな機器分析環境を整えればよいかを考えてみたいと思います。機器分析メーカーからは提供できる技術についてご講演いただき、ユーザーからは導入事例についてご講演いただきます。

期日 2022年5月26日(木) 13.00~17.05

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 ウイズコロナ時代に求められる機器分析環境

講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(栗田工業(株)) 榎本幹司

1. リモートワーク環境における分析業務の効率化(13.05~13.40)

(株島津製作所) 西村弘臣

2. デジタルトランスフォーメーション時代におけるデータの有効活用(13.40~14.15)

(アジレント・テクノロジー(株)) 小林聡和

(LC分析士初段取得予定)

3. 分析機器の管理とHPLCユーザーの業務効率向上の提案(14.15~14.50)

(株日立ハイテクサイエンス) 清水克敏

(LC分析士二段, LC/MS分析士初段)

休憩(14.50~15.20)

4. 受託分析機関における災害及び感染症への対策(15.20~15.55)

((一財)日本食品検査) 橘田 規

(LC分析士二段, LC/MS分析士四段)

5. ウイズコロナ時代に対応した研究所を目指して(15.55~16.30)

(栗田工業(株)) 榎本幹司

(LC分析士三段, LC/MS分析士三段)

6. 総括「ウイズコロナ時代に求められる機器分析環境」(16.30~17.05)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC分析士五段, LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員:1,000円、協賛学会(日本分析化学会、日本薬学会、日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員:3,000円、その他:4,000円、学生:1,000円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円)。締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 2022年5月19日(木)(入金締切時刻:15時まで)

申込方法 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申込みください。お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第371回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。

参加費の納入が確認できた方には、5月20日以降に①例会サイト入場URLと②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会

サイト入場URLをお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/aLPWNmBbx6MT1MHG7>

銀行送金先 りそな銀行 五反田支店(普通)0802349 口座名 シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 栗田工業(株) 榎本幹司[E-mail:k.enomoto15@kurita-water.com]

2022年度「ぶんせき講習会」(基礎編その2)

「化学分析の基礎講座～実験用基本器具、マイクロピペット、電子天びん、およびpHメーターの原理と使い方～」

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇談会

協賛 (公社)化学工学会関西支部、(一社)近畿化学協会、(公社)日本化学会近畿支部、(公社)有機合成化学協会関西支部、(公社)高分子学会関西支部、(一社)日本鉄鋼協会関西支部、(公社)日本金属学会関西支部、関西分析研究会

化学分析のみならず、合成・物性測定など化学実験や培養などのバイオ実験を行う上で、試薬の秤量や調合は実験の質を左右する重要なファクターになります。最近では機器のデジタル表示やパソコンの普及により、これらの操作における測定値は容易に得られるようになりましたが、正しい値や信頼性のある値を得るためには、実験器具の適切な使い方や、機器の正しい校正法や操作方法を理解・修得することが必要です。そこで、本講習会では、主に初心者(研究室配属直後の学生や新入社員)や基礎から学びなおしたい人を対象に、化学実験の基礎となる秤量・調合・溶液調製をより適切に行えるための講義と実習を企画しました。ピペット・メスフラスコなどの実験用基本器具、マイクロピペット、電子天びんおよびpHメーターの基本操作を原理も含めて習得できます。

期日 2022年6月17日(金)10時~17時

会場 (株島津製作所・関西支社(梅田))マルチホール〔大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル14階、電話:06-6373-6522、交通:阪急梅田駅下車すぐ、JR大阪駅、地下鉄梅田駅より徒歩5分。※14階へは高層階用エレベーターをご利用ください。詳細は下記URL参照〕

<http://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/kansai.html>

講習内容 実験用基本器具、マイクロピペット、電子天びん、およびpHメーターの原理と使い方

対象者 学生や新入社員および基礎から学びなおしたい方

講習プログラム

1. 講義「実験用基本器具の原理と取り扱い方」(10.00~11.00)
(神戸大院海事)堀田弘樹
・ガラス製体積計(測容器)の取り扱い～受用、出用の容器の違いなど～
・標準溶液の調製
2. 「マイクロピペットの取り扱い方と管理方法(実習付き)」(11.10~12.10)

(エー・アンド・デイ)石塚英樹

- ・マイクロピペットの規格、構造、選択、基本的な操作方法、維持管理
- ・精度よく分注するために～揮発性のある液体、粘性のある液体の分注方法～
- ・電動ピペット操作方法～通常分注と連続分注～

3. 「電子天びんの原理と取扱い方（実習付き）」（13.10～15.00）

（島津製作所）浜本 弘

- ・正しい据え付け方法
- ・電子天びんの感度調整
- ・天びんの環境や測定目的に応じた使い方
- ・天びんの点検方法
- ・応用測定
- ・天びんの取り扱い

4. 「pHメーターの原理と取扱い方（実習付き）」（15.10～17.00）

（堀場アドバンスドテクノ）桑本恵子

- ・pHとは
- ・pHを測るには
- ・測定したpH値の不確かさ
- ・電極のメンテナンス方法
- ・サンプルに適したpH電極の選び方

- *参加者には事前に電子メールにてPDF資料を送付します。
- *当日はテキストの配布は行いませんので、各自でPDFを印刷しての持参、あるいはタブレット等での準備をお願いします。

- *主催者側で昼食を用意します。

参加費 主催・協賛団体所属会員7,000円、学生4,000円、会員外11,000円

申込締切 6月10日（金）、定員（20名）。お申込受付は先着順とし、定員になり次第、締め切ります。6月11日以降のキャンセルは不可。

申込方法 参加を希望される方は、近畿支部HP (<http://www.bunkin.org/>) から本講習会のページに入ってください、【参加申込フォーム】にてWebからお申し込みください。

- *お申込み後、自動返信メールが届きましたら、開催日までに参加費のお支払いをお願いいたします。参加費は銀行口座（りそな銀行御堂筋支店 普通預金 No. 2340726、名義：公益社団法人日本分析化学会近畿支部）にお振り込みください。

- *参加証と会場案内図・テキストダウンロード情報などをメールにて送付します。当日、この参加証を持参してください。

- *コロナウィルスの感染状況により中止する可能性があります。変更などの詳細は、近畿支部HPにてご確認ください。

申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6階（公社）日本分析化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：mail@bunkin.org, 近畿支部HP：http://www.bunkin.org/〕

問合せ先 諏訪雅頼（大阪大）〔E-mail：msuwa@chem.sci.osaka-u.ac.jp〕

4. 事故事例から考える実験室・作業場の安全管理

（阪大安全衛生管理部）山本 仁

5. 実験室・作業場における化学物質のリスクアセスメント

（阪大安全衛生管理部）山本 仁

6. 実験で解説する静電気による火災・爆発を防止するための安全対策

（SL経営）蒲池正之介

参加費・申込方法 詳細は <https://kinki.chemistry.or.jp/csjevent/anzen22.html> をご参照ください。

申込締切 6月3日（金）

申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 日本化学会近畿支部〔電話：06-6441-5531, FAX：06-6443-6685, E-mail：csjevent@kinki.chemistry.or.jp〕

第28回化学安全講習会

主催（公社）日本化学会近畿支部

協賛（公社）日本分析化学会近畿支部ほか

期日 2022年6月20日（月）・21日（火）

会場 大阪科学技術センター

プログラム

第1日（20日10.00～16.00）

1. 化学物質の発火・爆発危険性について
（産総研）松永猛裕
2. 化学企業における化学物質管理についての課題
（住友化学）稲若邦文
3. 化学プラントとリスクアセスメント
（京葉人材育成会）中村昌允

第2日（21日10.00～16.30）

——以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第243・244回西山記念技術講座
「基礎から振り返る先端鉄鋼材料学」

主催 (一社) 日本鉄鋼協会
期日 2022年5月20日(金)(対面開催)、6月3日(金)(オンライン開催)
会場 (対面開催) 早稲田大学西早稲田キャンパス、(オンライン開催) Cisco Webex Meetings を使用
ホームページ <https://www.isij.or.jp/event/event2022/nishiyama243.html>
連絡先 (一社) 日本鉄鋼協会 育成グループ [電話: 03-3669-5933, FAX: 03-3669-5934, E-mail: educact@isij.or.jp]

日本ケミカルバイオロジ学会第16回年会

主催 日本ケミカルバイオロジ学会
期日 2022年5月30日(月)~6月1日(水)
会場 富山国際会議場
ホームページ <http://www.jsjb.jp/>
連絡先 〒105-0014 東京都港区芝3-2-11-702 日本ケミカルバイオロジ学会 第16回年会事務局 [電話: 03-3798-5252, FAX: 03-6774-8806, E-mail: jsjb@event-convention.com]

電子機器トータルソリューション展2022

主催 (一社) 日本電子回路工業会
期日 2022年6月15日(水)~17日(金)
会場 東京ビッグサイト東展示棟
ホームページ <https://www.jpccashow.com/show2022/>
連絡先 〒105-8335 東京都港区芝3-23-1 セレスティン芝三井ビルディング (株) JTB コミュニケーションデザイン内 JPCA 運営事務局 [電話: 03-5657-0767, E-mail: jpccashow@jtbcom.co.jp]

「分析化学」年間特集「省」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画しており、2022年度は「省」をテーマとすることと致しました。

世界の総人口は現在約78億人となり、人々が健康で豊かに暮らしていくためには、限られた資源を有効に活用することが不可欠です。また、誰もが高度な科学技術や医療技術の恩恵を受けられるよう工夫することは、持続可能な開発の理念に資する。転じて我が国の近現代史を顧みますと、少ない資源の元での効率の良い技術開発はお家芸と表現しても過言ではなく、分析化学の分野においても、新しい分析方法・技術の開発や改良を通して、複雑化・多様化した現代社会に大きく貢献しているところです。

こうした背景から、本特集では「省」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「省」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の12号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切: 2022年4月22日(金) (第3期)

初めて書く論文は母語の日本語で!
「第21回若手研究者の初論文特集」募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会では、2022年(第71巻)に第21回「若手研究者の初論文特集」を企画します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2019年より本特集を年間特集とし、都合の良いときに執筆して投稿できるようにしました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌HPをご参照ください。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdf ファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P: 印刷ページ数) (単位: 円)

会員の場合: $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律 80,000 円)

会員外の場合: $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律 90,000 円)

*上記に消費税がかかります。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、

機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要な試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会 [E-mail: bunseki@jsac.or.jp]

『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円（税込）のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用方法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご利用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。